

緑の相談コーナーだより

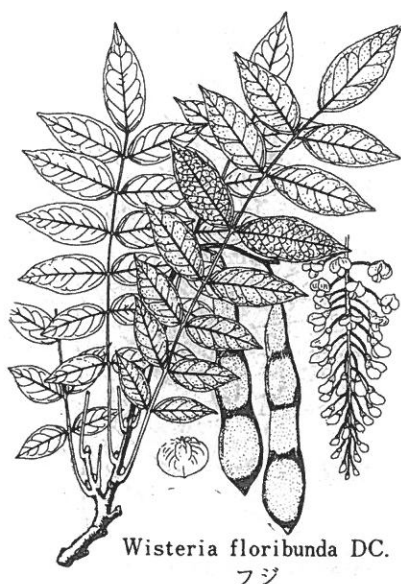
NO. 345 2014. 3. 1 発行

岩見沢市志文町 794 番地

いわみざわ室内公園「色彩館」

身近な樹木 “フジ” (藤)

～優雅で気品あふれる薄紫の花房～



山野に咲いても庭園に咲いても、白または薄紫のフジの花は、日本人に古くから親しまれてきました。マメ科フジ属のつる性落葉低木で、太いものは胸高直径 40 cm にもなります。根系は横によく伸長し、耐陰性が強く、林内でも生育しますが、良く成長するには十分な陽光が必要です。ノダフジ系、ヤマフジ系、シナフジ系が観賞用として知られています。ノダフジ系は、本州、四国、九州に分布し、葉裏に毛が無く、つるは右巻きです。ヤマフジ系は、本州西部から四国、九州に自生し、葉裏に軟毛が生えており、つるは左巻きです。そして、シナフジ系は中国原産で、つるは左巻きです。適潤性の土壌を

好みますが、とくにせき悪でない限りどこにでも生育します。しかし、乾燥には比較的弱く乾燥するところでの生育は不良のようです。

フジは古くから日本人の生活に深く結びついていたようで、記紀万葉にもいろいろな姿で登場しています。藤の皮をつむいで、その荒い繊維で織った布でつくった藤衣の歌、藤の花を挿頭にした歌などが多くあり、すでに庭木としてもフジが植えられていたことが分かります。また、フジはどの時代にもまして平安時代の花であったともいわれます。それが藤原家のシンボルであり、花が「ゆかりの色」紫であることから愛されたものと思われます。また、「源氏物語」、「枕草子」などの文学にも、フジにゆかりのある内容が見られ、いずれも、藤花に美と高貴なるものを感じてのことのようです。

植物名の由来ですが、フジは吹き散るの意味で、花の咲く様子を表現した名といわれます。晩春の口差しのなかに、薄紫のチョウのような形の四弁花を、総ふさのように垂

れて咲かせる姿は、いかにも名前の由来を思い起こさせてくれるようです。

効用と用途ですが、一般に、棚づくりして観賞用の庭園樹として用いられます。また、茎は土瓶敷きなどの藤蔓細工、外皮は藤布として古くから使用されていましたが、今では京都府の一部でつくられているにすぎません。繊維が強靱なので特殊な縄としても使用されます。

藤の花今をさかりと咲きつれど船いそがれて見返りもせず

坂本龍馬

吹き出して藤ふらふらと春の外

千代女



バラ園

公園だより



ここ2～3年、豪雪に見舞われた岩見沢ですが、3月になって、春の気配が少しずつ近づいている感があります。しかし、バラ園のバラ達は厚い雪の布団をかぶり、まだ休眠中です。農業ハウスや家屋への被害をもたらした今年の雪も、3寒4温の季節を迎え、少しずつ減ってきておりますが、この後、融雪が進むにつれて、雪の沈降圧により、庭木やバラが折れたりしないか心配な時期でもあります。これから、北国の大自然は、少しずつ目を覚まします。南下していた水鳥達が帰ってくるのももうすぐです。木々の枝先が輝きを増し、雪の下からはバラ達が顔をのぞかせる日が待ち遠しい毎日です。

今月のバラ園からの一口メモは、芽吹き後の手入れについてです。いよいよ春になってバラ栽培作業のスタートです。春先に芽が伸びてきたら、まず、新芽の整理と枯れ枝除去の手入れをします。ほかの芽に比べて伸びが悪い弱小枝や、内側に伸びていて、残しておいても花が咲かず、ほかの枝の陰になって、やがて落葉するような枝は切り取りましょう。また、芽が多すぎて込み合いがちな場合、内側に伸びている芽を1本切り取ります。これに合わせて、冬期間に枯れた枝なども切り取ります。この作業を行うことで、芽の数を調整し、養分の分散を抑え、残された枝が充実するのです。また、どの芽を整理するかによって、枝の向きを調整し、樹形を整えることができます。さらに、不要な芽や枯れ枝を取ることで、込み合いすぎを解消して病気の予防にもなり、株の見た目もきれいになります。

色彩館では、ヤブツバキの花が見頃です。また、ギンヨウアカシアの黄金色の花もあざやかです。ハナミズキの蕾もだんだんとふくらんで、間もなく開花を迎えることでしょう。

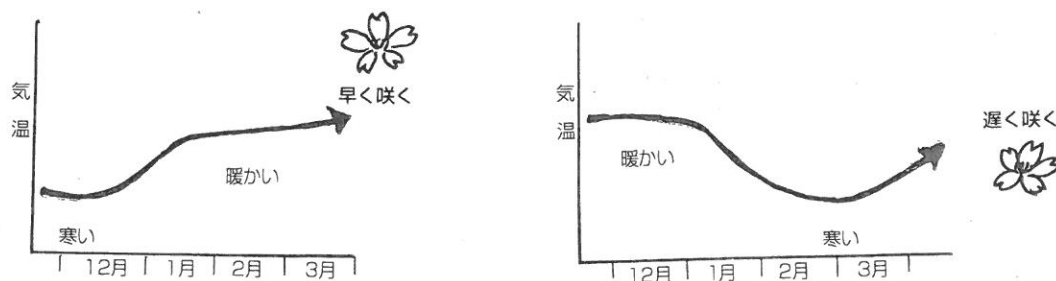
南国温室では、ミカンなど柑橘類が、たわわに実り色づいております。ストレリチア（極楽鳥花）の花も咲いて、別世界の雰囲気を楽しんで頂けます。

相 談 日 記

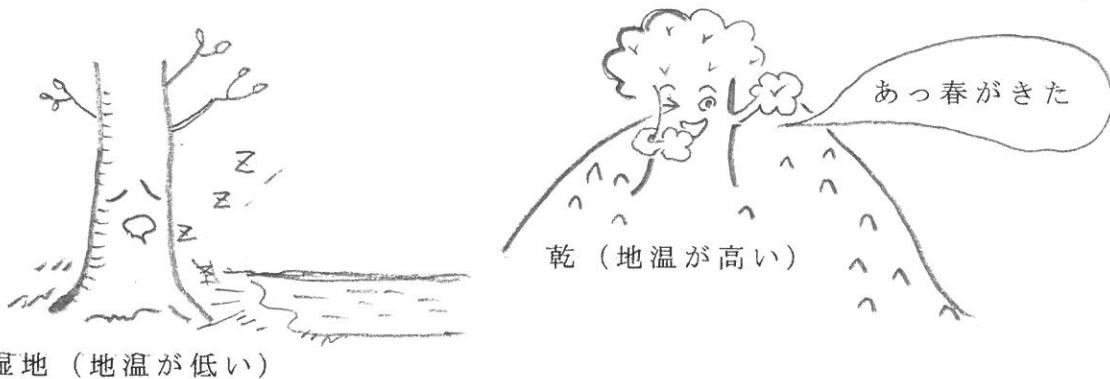
問 南の方からは、そろそろ花の便りが届く季節となりましたが、サクラの花の開花について伺います。開花の時期は気温によって早まったり、遅くなったりすると聞きましたが、暖冬だとサクラの開花は早くなるのでしょうか？また、気温以外に開花時期を左右するものなどについて知りたいのですが？

答 サクラの花芽は、冬に一定の寒さを経験すると休眠が破られ、開花の準備をします。しかし実際に開花するには一定の暖かさが必要です。普通は暖冬だとサクラの開花は早くなりますが、かえって遅くなることもあるのです。それは、ひとくちに暖冬といっても暖かさや寒さのあり方が違うからです。ふつうサクラは、12月、1月が寒くて2月、3月と春が近づく時期に暖かいと早く咲きますが、12月1月が暖かくて2月、3月が寒い場合、サクラの開花は逆に遅くなってしまいます。

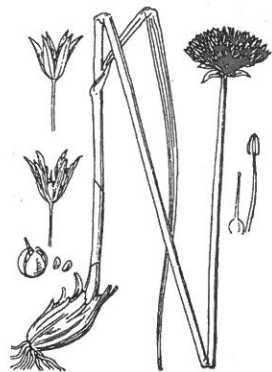
12月から1月の間に一定の寒さにあわないと花芽が開花の準備をせず、2月から3月の間が寒いと花芽の発育が遅れるからです。そのようなことから、冬でも10℃より寒くなることがめったにない沖縄などでは、ソメイヨシノは開花しません。



気温の外に開花時期を左右するもの 春の芽出しや開花の時期は、主として気温によって変化しますが、土壌の温度、すなわち地温によっても変化します。土が湿った所では春になっても地温の上がり方が遅いので、春の芽吹きは乾いた所よりも遅くなります。この現象は、湿地帯や池のほとりで観察することができます。



美しい花は花壇材料にも～チャイブ 花言葉 ゆとり



チャイブは、北海道の海岸地帯近くに自生するユリ科ネギ属の多年生草本で、別名をエゾネギといいます。蝦夷（北海道）に産するネギという意味ですが、北半球の温帯にひろく分布しているアサツキの地方変種です。晩春に咲く桃色のネギ坊主のような花は、愛らしく花壇にもマッチします。葉はアサツキに似ていますが、香りはマイルドで、ネギ臭が少ないため、サンドイッチやスープなどに用いる外、開花直後に摘み取った花はサラダなどの彩りに利用できます。属名の *Allium* はラテン語の「臭い（Alere）」やラテン古名の「ニンニク（halium）」に由来するとか。

手入れのポイントとしては、高温乾燥と酸性土壌を嫌うので、夏に明るい日陰となる、水はけと水もちの良い肥沃な土地で栽培します。春から秋の生育期間中は、地際4～5cmから収穫します。極度の乾燥や肥料切れで、葉先が黄色くなるので、定期的に液体肥料などを施しましょう。

3～4月の園芸講座・行事案内

市民園芸講座の内容紹介

♣ 家庭果樹の楽しい管理

日時 3月16日（日） 13:00～15:00

講師 中央農業試験場 内田 哲嗣 さん 定員40人 参加料 無料



♣ バラの系統と特徴

日時 3月22日（土） 10:00～12:00

講師 ローズgrower 工藤 敏博 さん 定員40人 参加料 無料

♣ ハンギングづくりの基本

日時 4月13日（日） 13:00～15:00

講師 月形コテージガーデン 梅木あゆみ さん 定員40人 材料代 1500円

♣ バラの剪定の基本

日時 4月26日（土） 10:00～12:00

講師 ローズgrower 工藤 敏博 さん 定員40人 参加料 無料

編集・発行 北海道グリーンランド（空知リゾートシティ株式会社）

お問い合わせは 室内公園「色彩館」緑の相談コーナー 25-6111 まで